



ぶどうのささやき

26号

2018年
7月15日発行

地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

横須賀の経済・産業の再興を目指して

本年4月より横須賀市経済部長を拝命いたしました上之段と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。また、「認定NPO法人産業クラスター研究会」の皆様には、日頃より横須賀市の産業振興施策に関し、多大なるご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

今、横須賀市の経済に対する景況感是一部業種において改善傾向にあるものの、未だ「不透明な状況」との声も多く決して良い状況とはいえません。特に市内企業からは人手不足の声が継続して聞こえており全体的には停滞感が生じています。また、急速に進展するICT、IoT、AI等の技術に取り残されることのないよう導入体制を整えていかなくてはなりません。

本市の地域経済の基盤は中小企業に支えられている部分も多く、その活性化なくして横須賀経済の再興はありえないと考えています。そこで平成23年12月には中小企業の意欲的で創造的な活動を支援することが不可欠であるとの認識から、「横須賀市中小企業振興基本条例」を制定しました。

この条例に基づき、総合的に施策を推進する「横須賀市中小企業振興プラン」を策定しましたが、この度改定を行い、新たな時代のニーズにあった実効性のある取組みを進めているところです。

このプランでは「経営基盤の安定化を図る」「経営の拡大及び新分野への挑戦を促す」「人材の確保・育成を支援する」「企業誘致・創業を支援する」といった4つの方向性を示し、その方向性を推進する基本施策と

横須賀市経済部
部長 上之段 功



重点的に実行する取組みを位置づけ、事業を行っていくこととしています。

特に人材不足や事業承継への支援、経営全般にわたる相談体制の充実、受注機会の拡大や資金調達の支援などは強く求められていますので、地元金融機関や横須賀商工会議所などと連携しながら推進してまいります。

また、市内にはYRPや臨海部などを中心に国内外を代表する研究機関が立地しています。そこに集積する人材や技術との交流やマッチングも勢力的に行っていくことで新たな産業の創出や企業集積に繋げていきたいと考えています。

横須賀市としましては、これからも各事業者や関係団体の皆様との連携を密にしながら「経済・産業の再興」を推し進めてまいりますので、「認定NPO法人産業クラスター研究会」の皆様にも是非、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、会員の皆様の一層のご活躍と貴会の益々のご発展を祈念し、結びとさせていただきます。

クラスターとは・・・

クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーターが著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003年8月に産業クラスター研究会を設立しました。

平成30年度の活動方針について

当会は、法人会員21社、個人会員32名の団体となり、平成29年度は収益3部門（企業支援・環境支援・翻訳業務）と非収益3部門（新しい公共支援・産官学連携支援・広報）の両部門とも順調な支援活動を行うことができました。これはひとえに当会会員の皆さま方のご協力と、産官学の関係各位の皆さま方のご支援の賜物とお礼申し上げます。

さて、先頃公表された日銀横浜支店短観などによれば、景気判断は「緩やかに拡大している」とあり当会法人会員には製造業が多い中で、その動向を示す複数企業があります。具体的には、ICT、IoT、AIなどの企業が好調なこと。また、鉄道車輛・公共建設・環境設備などの分野でも好調な企業もあって、微力ながら当会の支援活動がますます必要とされる状況になってきていると感じています。

認定NPO法人として、シニアNPO法人の継続と発展に努めながら法人会員の支援要請に応じ、また一般市民や地域企業への支援活動を行いつつ地域経済・産業・文化の活性化に貢献することが当会の目標です。その上で、平成30年度は下記の具体策に取り組んでまいります。

(1) 支援企業の拡充と深堀り並びに活動地域の拡大

三浦半島地域を主体にさらに横浜市全域や都内にも拡大し、新しい視野に立つ積極的な支援活動を行います。

(2) 地域へのエコ教育と理科教育の普及活動

横浜市、横須賀市で実施している小学校児童向け「エコ教育」に加えて他団体との連携の「理科教室」を開

理事長 木下 武



き、小中学校児童、生徒に対して科学知識の普及と啓蒙に努めてまいります。

(3) 認定NPO法人としての要件の達成

企業、環境などの支援活動を行いながら、非収益活動では市民、団体向けセミナー「なんでも相談室」を月一回行うなど市民と協働のボランティア活動を展開します。

(4) 行政、大学、NPOなどからの業務委託事業の取り組み

従来からの近隣大学などとの交流をさらに深め、法人会員への新規事業開発への橋渡しと支援を目指すことと行政協働事業にも挑戦いたします。

(5) PR活動の拡大と法人・個人会員の獲得

長年の活動実績が実り、行政、他団体との交流も深まり昨年度は個人会員が数名入会し、会員の高齢化問題にも明るい兆しが見え、支援活動の拡大が期待されます。

(6) 他団体との交流拡大

横浜、横須賀の商工会議所や他のNPO・団体との連携と相互協力をして事業推進を図るとともに当会内部の交流、親睦を深め、法人、個人会員間の情報交換と交流活性化を展開します。また、各種趣味の会などを開催しながら、シニアが参加できる「交流の場」の提供を進めます。

【歳時記】 夜空をながめて

夜空を切り裂いて走る黄金色の一筋の光。それが流れ星です。流れ星の観測は理屈抜きで感動できる私の楽しみの一つです。その流れ星が一時間に数個、多い時には十個を上回って見ることができなのが「流星群」です。一年間に出現する流星群数は五十を超えているのですが、出現緯度・時刻・天候に左右され出会えるのは多くありません。月の出もなく雲もなく条件は整っていても当たり年、外れ年があつて、空振りもあります。

私が流星群を意識し始めたのは、北アルプスの白馬岳で見た流れ星でした。十年ほど前の五月の連休明けに白馬の大雪渓を登った後の山小屋で、たまたまに隣り合わせた登山者から、明日の朝は流れ星が沢山見られると誘われて、早起きした時でした。五月とはいえ三千米近い山麓は空気が冷たくて刺すようでしたが、空には東京で見える何倍もの星が瞬いています。その中を一本の光が、低い空を切り裂く様に走って、すうっと消えていきました。この流星群は「みずがめ座リ(イータ)流星群」といって、ハレー彗星の残留物が母天体と考えられている流れ星です。この朝も一時間程で数個の出会いはありました。

それから私の流星群追っ掛けが始まりました。天文台に問合せたり、インターネットの流星群観測専用サイトを見たりと情報を集めては出掛ける。場所は近所の標高百五十米位の丘、高尾山系の陣馬山、長野の車山高原、果ては富士山の八合目等々防寒用の寝袋を持つてはうろつき回っています。

皆様がこれを読まれている頃には既に終わっているかも知れませんが、七月二十八日には皆既月食とみずがめ座δ(デルタ)流星群・やぎ座流星群が重なって出現します。今年は十五年振りの火星と地球の大接近もあります。

皆様も時折、夜空を見上げては如何でしょうか。(喜)



満天の星空を走る流れ星
(白根山・弓池と天の川)

当社のあゆみ

昭和 52 年 7 月に電子プリント基板設計、製作、回路設計を目的として日本電子エンジニアリング株式会社を資本金 150 万円にて設立いたしました。

創業時は横須賀市の小川町マンションに事務所を構え、仕事が順調に増えると同時に、事業所も拡大し、昭和 55 年には公郷へ、昭和 60 年には森崎に移りました。森崎への移転を機に設備投資し、CAD を導入しました。

これまで手書きで行っていた設計手法から、CAD を使用した設計に移行し、作業の効率化を図りました。

設計方法も他社では行っていないラインインピーダンスの整合、等長配線など、伝搬遅延を考慮しノイズ対策を行いながらプリント基板を製作して、取引先からも関心を寄せられました。

以降、現在に至るまでプリント基板設計をメインに製造、実装まで手掛け、継続しております。

平成 7 年には資本金を 1000 万円に増資いたしました。

横須賀リサーチパーク (YRP) に NTT ドコモの R & D センタが進出するとの情報を得て、ソフトウェア開発技術者の需要が増える見込みがありましたので、ソフトウェア開発経験者の採用、未経験者の教育を進めました。

NTT ドコモが YRP に進出した平成 9 年には、横須賀地域で作った YRP 情報産業協同組合に加入し共同受注という形で、ソフトウェア開発業にも参画し、拡大を図ってまいりました。

ソフトウェア開発の内容は、言語を使ってプログラムを製造するというよりは、携帯電話本体の性能試験、搭載機能やアプリの評価業務、通信基地局装置の性能試験、無線試験などがメインでした。

顧客先での作業は常に厳しい目で見られており、自社内での開発時よりも品質の担保を強化することと、顧客と積極的にコミュニケーションを取ることに注力しました。それが奏功し、顧客からの信頼を得て受注増に繋がりました。

携帯電話開発の黎明期からガラケー時代を経て、スマートフォンが主流となってからは、キャリアアプリの仕様

ProGATE 株式会社
代表取締役 高橋 榮一



検討サポートや仮想ネットワークやサーバ関連の仕事が増えています。国内端末メーカーの撤退などもあり業界全体的に開発量の減少、コストカットもあり、成熟期に入っています。

前述のような理由で、平成 26 年頃からは携帯電話以外の開発業務に参画することが増えました。AI、ビッグデータを利用した開発、IoT や自動車の自動運転など、新たな社会インフラになり得る次世代の製品開発に携わっております。現在は顧客先での開発作業がメインとなっておりますが、近い将来、自社内での受託開発を主力事業とすべく、環境を整えている最中です。

本年 3 月、国際シンポジウムの会場等にもなり、YRP を象徴する建物である YRP 1 番館へ本社移転し、次世代へ良き伝統は守りつつも、常に進化する技術を研鑽し、広く社会に貢献できる企業を目指すことを誓い、社名を ProGATE (プロゲート) 株式会社に変更いたしました。

今後も 40 年超の実績を有するプリント基板設計業務の安定受注と、将来的に更なる成長が見込めるソフトウェア開発業務の戦略的な拡大を軸にした活動を推し進めて地域、社会の発展に貢献できる企業を目指したいと考えています。



YRP センター 1 番館

ProGATE 株式会社

〒239-0847 神奈川県横須賀市
光の丘 3 番 4 号 YRP センター 1 番館 413
(電話) 046-839-4623
(FAX) 046-839-4624
ホームページ: <http://www.pro-g.co.jp>

四方よしで挑むマーケティング戦略 ⇒ 企業継続 (BCP)

「四方よし」の経営哲学は、会社を創業し、幾多の困難を乗り越え、50年間経営を実践してきた体験や経験に基づいて構築してきたもので、「売り手よし・買い手よし・世間よし・自然よし」の4つの「よし」を根幹とする私の経営哲学です。

今回、それに基づいて挑戦するマーケティング戦略を箇条書きでご紹介します。これは、企業継続 (BCP) を指向したものと考えております。



株式会社 大倉物産
創業者 宮崎 正男

○ “宮崎正男四方よし” に “情報・智慧・信頼” を乗じた未来ビジネスの実践

目的：“国家の平和なくして、家庭の幸福なし” ⇒ 国家像

：「資源 (知能) × 資金 (金) × 防衛 (準備)」 ⇒ 平和、担保

- 1) 今日一日、一所懸命、もったいない ⇒ 精神
- 2) 人材育成 (五倫五常) は最優先、次は貧困 ⇒ なくす & CO₂ (二酸化炭素) ⇒ 0 ⇒ 共生
- 3) 日本のシニアの長所は、もつれた紐を結びなおす ⇒ 日本人 (老人) 特性
- 4) 卒なる者は余分な金を残さない ⇒ 寄付社会の確立 ⇒ 武士道・意識改革

○ 生涯学習 (勉強は社会人になってから臨終までが本番) ⇒ 人間性を極める

* 自立 - 自律・自責 ⇒ 「五倫・五常」「切磋琢磨」「不易流行」「離見の見」等

○ 年輪型長寿ビジネス (毎年1%~または3年毎に3%の成長) ⇒ 「信念」

* 企業の価値 (形) の向上：資格・認定取得

* 事業継承：「世界最新の経営手法 (理念)」⇒ 「四方よしの経営」「守攻反復の経営」「あるべき姿 (逆算)」等

○ 会社経営50年間から会得したビジネスの奥義 ⇒ 五感 (感性) ビジネス

* 心・体・言の三位一体

* 聞く・受け入れる・共感

* 心・体は別途・・・・・・・・

* 感謝の言葉 ⇒ はい・ありがとう・すみません・お陰様

注：「なんで」でなく (後向き)、「なぜ」の実践 (前向き) ⇒ No1 の持続 ⇒ 「自信」

○ “宮崎正男四方よし” 85歳から

“4.0産業 (AI産業) 対応可能な新たなビジネス” を立ち上げる、目標 ⇒ 「希望」

* 基本：四位一体「社員重視」「顧客本位」「世間奉仕」「自然の摂理に従う」

* 志：「切磋琢磨」「不易流行」⇒ 「人間力を高め」⇒ 「人間性の極め」

* 時代：「開発から回復へ」「拡大から縮小へ」「画一から多様へ」「物質満足から精神満足・震災対応へ」

* 目標：① 働きたい人が年齢に関係なく、喜楽に働ける仕組みづくり ⇒ 地産・自給自足

② 二人三脚スタイルの新ビジネスでマーケティング戦術

⇒ 主人 (若者能力) × 従人 (老・壮の経験と情報) × (目的共有) ⇒ 人材育成

③ ロボットビジネスの推進 (少子高齢化対策&国策)

* 結び：“感謝は奉仕にあり”。

(注：BCP (Business Continuity Plan)：事業継続計画)

株式会社 大倉物産

〒236-0003 横浜市金沢区幸浦2-22-7

(電話) 045-785-2111

(FAX) 045-785-2115

ホームページ：http://www.kkokura.co.jp

歴史散歩

四国遍路

個人会員 仲田 清

三浦三十三観音霊場巡り

我が家の近くに、三浦三十三観音霊場 22 番札所観音寺が在る。三浦三十三観音巡りは、三崎漁港から反時計回りに、追浜、逗子を経て三崎に戻る巡礼路である。観音が 33 の姿に身を変え衆生を救うことに因んだ観音霊場巡りは、平安末期の西国観音霊場に始まり、全国百か所以上に広がる。

海外のサンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼などが聖地訪問を目的とするのに対し、日本の巡礼は遍路とも言われるように、巡る行為自体に価値を置く。これは、修験者の修行の場だったことに由来するためと考えられる。

四国八十八ヶ所

修行といえば、真打は四国八十八ヶ所である。徳島県から、香川県まで、概ね海岸線に沿って約千二百キロに及ぶ弘法大師ゆかりのお寺を巡り四国を一周する巡礼路である。地元の人がお接待で遍路道を維持し、現在では年間約 10 万人が車など様々な手段で巡礼に出る。歩き遍路は 16% 程度と言われ、最近では海外からの遍路も多い。

阿波・発心の道場

阿波徳島は一番から二十三番まで約 160 キロ 8 日間の旅である。

白衣、菅笠、金剛杖、納経帳など遍路の身支度を整え、弘法大師と同行二人の旅を始める。徳島平野北東端、鳴門市一番札所霊山寺の本堂と太子堂にお参りし、納経帳にお納経を頂く。十一番藤井寺までの最初の 2 日間は徳島平野の長閑な 40 キロの平坦な田舎道を歩く。早速地元のお爺さん・お婆さんたちのお茶とお菓子と笑顔の接待を受ける。初日は六番安楽寺宿坊に泊まる。宿坊や遍路宿での交流は遍路の楽しみの一つであり、貴重な情報入手の場となる。二日目、登校生の「おは



丁度良いところにある長戸庵

ようございます」に元気を貰う。午後は十番から十一番まで 3 時間かけて徳島平野を横断する。

焼山寺道

三日目にして、「健脚 5 時間、並脚 6 時間、弱脚 8 時間」と言われる道中最大の難所、十二番焼山寺道 13 キロに挑戦。十一番藤井寺本堂横からいきなり急な山道、早朝の薄暗い森のトンネルを登る。登り切った丁度良いところに「長戸庵」、弘法大師も洒落が判る人のようだ。朝日に輝く徳島平野が見渡せ、昨日歩いた道が懐かしい。一度下って、再び急坂 250m を 1 時間掛けて浄蓮庵まで登る。御大師様の銅像と背後の杉の大木の処で今日初めての遍路に会う。英国から来た男性。

一息ついて唯一の集落まで 350m を一気に下る。集落を経て谷川を過ぎると最後の遍路転がし、2 キロの急坂を登り、標高 700 m 焼山寺に 6



焼山寺山門に向うお遍路さん

時間弱で到着。焼山寺の御朱印は有難みも倍増する思いである。

焼山寺を越えた勢いで、次の難所「鶴林寺 / 太龍寺」を越えると、最後は海亀の町日和佐まで海沿いを歩き二十三番薬王寺で、阿波を打ち終える。

四国遍路の魅力

四国遍路は、立派なお寺もなく、有名な観光地も少なく、交通の便は悪い、下手すれば昼ご飯抜き、無い尽くしの旅である。それでも遍路宿で、「2 回目です」「5 巡目です」「赤札 (7 巡以上) だ」。家に帰れば、その翌日には次の計画を始めると、歩き遍路の多くが言う。人を遍路への再訪に誘うもの、それは数百年にわたり同じ道を歩き続けてきた延べ百万人以上の遍路達と、遍路への接待を代々続けてきた地元の人達とで、育んできた昔と変わらぬ暖かい空気なのかも知れない。皆さんも一歩踏み出してこの空気を吸ってみませんか。



最先端の現場見学会実施 ならびに地元大学との連携を模索

事業活動紹介

産官学連携支援部会 平野 和夫

当部会は法人会員と行政、大学や研究所との間に立ち、法人会員が抱かえている経営・技術上の問題解決に加えて、将来の企業像の設計、大学などにおけるシーズの活用も含めた支援活動を行なうことを目的としています。法人会員に役立つ工場見学会、講演会、セミナーの実施なども目的の一つです。中小企業の“ものづくり”の現場は、日々チャレンジの連続です。生産活動の価値を高めるにはどうしたらよいか、業務の改善に取り組むことに加え、新たな視点から考えることも重要と思われま

さっそく、最新の技術動向に触れ今後の企業活動の参考に資することを目的に、当研究会の法人会員及び個人会員を対象に、最先端の現場見学会を実施します。最先端の技術に触れる一日として、地方独立行政法人 神奈川県産業技術総合研究所 (KISTEC、海老名市) と㈱アルバック (茅ヶ崎市) を見学します。横須賀からバスを使い、1日に2か所を見学するのは初めてです。午前、中小製造業の技術支援を幅広く行い、設備のリニューアルを行っている神奈川県立産業技術総合研究所、午後は、『真空テクノロジーで“つくる”をつくる』をキャッチフレーズに、FPD(フラットパネルディスプレイ)や半導体製造装置の生産設備をはじめ、多角的かつ先端的な事業展開に取り組んでいる㈱アルバックを訪問します。

1日に内容が違う2か所を訪問する計画をしましたが、仕事の合間を縫って参加される法人会員の皆様にとって有



横須賀市 2017「夏の市民活動」での
ボランティア参加募集 (県立保健福祉大学にて)

意義な一日となることを期待します。真空技術を基幹とする先進的な取り組みに触れることなどは法人会員の皆様にとって、またとない機会になるものと期待されます。長年、官庁の外郭経済団体で活動し、豊富な経験・人脈・知識を持つ個人会員が、今回の見学実現に活躍しました。

この他、当部会の活動として地元大学との連携を模索しています。地域支援を前面に出す同大学は、神奈川県・横須賀市・市商工会議所・三浦市との間で、学生・職員の相互交換、インターン生の派遣などを行う協定を相次いで結びました。鎌倉・小田原・逗子・葉山などとも同様な協定を結びました。また、学長自身が地震による液状化現象の専門家であることから、法人会員や一般企業向けの講演会開催も企画したいと考えます。当会の法人会員には優れた技術を持つところがあり、当会が間に入って企業の専門家による授業の実施などを模索していきます。産官学連携は時代の要請であり今後とも積極的に活動していきます。



Webサイトの自主運営の手引き その2 ～ Web文書の作成・編集と管理について～

事業活動紹介

広報部会 部会長 新井 全勝

Webサイトの構築が完了したときから、運営が始まります。その中心は、Webサイトの更新、すなわちWeb文書の作成・編集です。本号では、連載中のWebサイトの自主運営という観点からWeb文書の作成・編集とそれに付随する管理について考えてみます。

1. Webサイトの更新について

期限切れの文書が放置されていたり最新の情報が掲載漏れになっていたりすると、そのWebサイトは信用されなくなる恐れがあります。常に最新の情報を掲載し発信しておくことが重要であり運営の中心課題です。

2. Web文書の作成・編集方式について

Web文書の作成・編集方式として2つの方式があります。一つは、パソコンに専用ツールをインストールしてWeb文書を作成・編集し、サーバにアップロードする方式です。もう一つは、2005年ごろから普及されてきたCMS(Content Management System、コンテンツ管理システム)と呼ばれる方式です。サーバ上に専用ツールをインストールしてWeb文書を作成・編集し、その場で表示テストや保管を簡単に実行できるという特徴があります。

Webサイト『Web Technology Survey』によると、Webサイトの51.6%がCMS方式で、さらにその59.9%がWordPress(WP)と呼ばれるツールを使用しています。

WP は、Web 標準準拠、使い易さなどをコンセプトとしたツールで、本稿は、WP をベースにして展開します。

3. Web 文書の洗練化とレベルについて

作成する Web 文書として、会社や団体などの紹介・お知らせ・報告などのビジネスライクな文書を想定すると、その洗練化の度合い（レベル）によって次の 4 つのレベルに分類できます。そして、レベルアップは習熟度を見計らって対応してください。

レベル 0：作成した直後の文書。未洗練化。

レベル 1：簡潔性・正確性・分かりやすさ・機密性・個人情報に配慮して洗練化したレベルの文書。このレベルで初めて公開可能となる。WP では、このレベルの文書については、HTML (Hiper Text Markup Language) や CSS(Cascading Style Sheets) 言語の知識がなくても作成できる。

レベル 2：読みやすさ、見やすさ、使い易さに配慮して洗練化したレベルの文書。このレベルでは、HTML や CSS の言語知識が必要になる。知識としては、見出し / 本文・箇条書き・表などの文書構造に関する知識とフォントサイズ / タイプ・色付け・整列・レイアウト・図形などのスタイリング（装飾化）と呼ばれる機能の知識が必要になる。

レベル 3：見栄えに配慮した洗練化レベルの文書。カラーのグラデーション表示・文字や図形の影付きなどのスタイリング機能が必要になる。

4. Web サイトを自主運営する立場からの Web 文書の作成と編集

- 1) Web 文書の作成・編集は、言語知識がなくても対応できるレベル 1 から始め、段階的にレベルアップする方法を採ることにより、初心者でも Web 文書の作成が可能になります。
- 2) Web 文書は、写真・PDF・図形などのマルチメディアを取り扱うので、そのアップロードや Web 文書への貼付けやリンク方法を覚えることが必要です。
- 3) Web 文書は、世界中にオープンにされるので内容については十分な注意が必要です。公開する前に、レビューの習慣づけを推奨します。
- 4) Web 文書の表示テストや管理には、高度な技術が必要になるので、対応力のある CMS ツールを選択し、自主運営者の負担を軽減することが重要です。
 - ① 情報の表示方法には、最新のものを優先して表示する方法と情報自体の優先度に基づいて表示する方法とがあり、両者に対応できる管理機能が必要です。
 - ② Web 文書の表示テスト用に実際のクライアント端末を使ったプレビュー機能が必要。模擬テスト環境を使うと実機を使った再テストが必要です。
 - ③ Web 文書の改訂履歴管理機能をもつツールが望ましい。
 - ④ Web 文書は、URL をルートとする階層構造ファイルとして保管する必要があり、階層構造の自動作成機能をもつツールが望ましい。
 - ⑤ Web 文書の作成・編集→承認→公開というワークフローまたはステータスの管理機能をもつツールが望ましい。

事務局からのお知らせ

- ① 平成 30 年 2 月 15 日、「神奈川県中小企業・小規模企業活性化推進強調月間」行事「見せよう！中小企業・小規模企業の力」をテーマに恒例の講演・講話会を開催。引続き行われた懇親会は多数の参加者があり盛況でした。詳細は、当会 Web サイトをご覧ください。
- ② 3 月 30 日 平成 29 年度第 4 回理事会を開催。平成 30 年度予算を承認しました。
- ③ 3 月 26 日～27 日 個人会員有志による横須賀ゆかりの地、倉渕村に旅行。7 名が参加。
- ④ 4 月 横須賀市立市民活動サポートセンターにて毎月第 3 水曜日開催の「いまさら相談室」を開始しました。
- ⑤ 4 月 26 日 平成 30 年度第 1 回理事会にて平成 29 年度決算と平成 30 年度役員として 3 人の理事の重任を承認しました。
- ⑥ 5 月 17 日 平成 30 年度通常総会と会員集会を開催。総会では各議案とも異議なく承認されました。引続き会員集会を行い会員相互の懇親を深めました。
- ⑦ 8 月 横須賀市立市民活動サポートセンター主催の「夏の市民活動」に参加します。夏休み期間に相応しく、対象を小中学生まで広げた「いまさら相談室」の開催を予定しています。
- ⑧ 新入会員の紹介

個人会員 柳本 茂 (横浜市) 個人会員 宮崎 正男 (横浜市) 個人会員 有本 徹 (藤沢市)

(事務局 佐々木 興吉)

トピックス



クラリカ理科教室の実現



当会は、一般社団法人「蔵前工業会 蔵前理科教室ふしぎ不思議(クラリカ)」と協働して、2018年3月2日に横須賀市立城北小学校において理科教室を実施しました。

同小学校はエコ教育を通じて体験授業にご理解をいただいております。今回は5年生3クラス91名を対象にした体験授業を実現する運びとなりました。講師、助手各3名で対応しました。

まず、直径2mmのガラス球をレンズにしたレーウェンフークの顕微鏡を生徒が作りました。次に、花粉や魚の鱗、玉ねぎの薄皮の細胞などを観察し、倍率170倍の威力に子供たちから驚きの声が上がりました。また光の屈折やレンズの仕組みの実験なども行って、光のことも実感として学びました。

アンケート結果では全員が楽しかったと答えていて、子供たちが理科好きになる一助になったものと考えています。

横須賀は幕末、小栗上野介忠順とフランス人ヴェルニーによって製鉄所が創られ、近代工業発祥の地として発展し、近代教育制度導入から多くの研究者・技術者が輩出しております。そこで歴史ある三浦地域のより一層の前



顕微鏡を楽しむ生徒

進のため、小中学校児童・生徒に、手薄と言われる理科に興味を持ってもらいたく「クラリカ」をお願いした次第です。

そして、理科教育に熱心な校長先生とPTAの協力により、理科教室の実現の運びとなったものです。

折を見て今後も継続して行きたいと考えております。ご支援・協力をお願い致します。

(理事長 木下武)

羅針盤

本号では、二つの記事を取りあげた。▼まずは、歳時記「夜空をながめて」である。筆者も小学生のころ、学校で教わった星(星座)のことを想う。そして、「お母ちゃん、星を見よう」と庭先に誘い、「あれが北極星、あれが北斗七星だよ、あつ流れ星だ!」と満天の星空を眺めていると、そつと肩におかれた母の手。その温もりを今も思い出す。星といえば、海洋冒険家の堀江謙一氏は「マーメイド号一人ぼっちの航海」で、星座(星)を観測して位置と方向を正確に知り世界中を航海できるとの講演を聞いた。何ともロマンのある冒険的な航海ではないか。

▼次は、法人会員のページ「四方よしで挑むマーケティング戦略」。近江商人の教えに「三方よし」がある。「売り手よし、買い手よし、世間(社会)よし」は、今日のCSR経営(社会的責任を果す経営)といえる。現在も、トヨタ、伊藤忠、高島屋、住友系、西武系など、その流れを汲む多くの企業がある。

宮崎正男氏は、これに、「自然よし(環境)」を加えて「四方よし」とする。五十余年の経営体験から創りだした経営哲学・理念である。「われ死すとも「四方よし」は不滅である」という。何人も成功ではなく幸福になる世の中を創るべきと説く。人創りが大切と強い若者を育てる「喜働塾(後継者教育)の創設を決めた。自らも「心を整え」「身体を鍛え」「頭を鍛え」「世界を観る」をモットーに邁進される。

▼「星」は古人も今人も旅や航海の羅針盤となり、「四方よし」は夢と希望のある日本づくりに、若者からシニアまでの羅針盤となる。ともに「輝き」続ける。(昭)

発行：特定非営利活動法人 産業クラスター研究会

〒239-0847 横須賀市光の丘8番3号 YRPベンチャー棟209号

Tel & Fax : 046-847-6355 E-mail : yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

横浜事務所 〒236-0055 横浜市金沢区片吹69番26号

連絡先 : 046-847-6355

E-mail : yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

発行人：木下 武